

## 健康・福祉部

令和元年度活動報告

1. 健康づくりの場応援 市辺ふれあいランドゴルフ大会  
9月25日(火) 50名参加
2. 脳活性化目指して 「認知症予防」でみんなで唄を!!  
12月3日(火) 午後1時30分から3時まで、市辺コミセンホールで市辺地区ふれあいサロンとして開催されました。勝見さん、杉澤さん両先生をお招きして、みんな大きな声で歌いました。57名参加
3. 健康診断受診率の向上を目指して、現状と今後について広報誌「万葉のまち 市辺」49号に東近江市保健センターの提供による情報を掲載いたしました。
4. 高齢者、障がい者ふれあいの場推進 「よってみてカフェこぼし」月一回開催を通じてこぼしの家、市辺社協と共に「ふれあいの場」推進に協力しています。
5. 健康と福祉に関する講演会 「ちょっときてえな講座」  
3月13日(金) 開催を新型コロナウイルス感染予防のため中止しました。令和2年度中には開催できるよう計画いたします。
6. 市辺、平田両地区10名の社協関係代表者と船岡中学校生徒会メンバーとの懇談会が8月30日行われました。生徒はそれぞれの各地域での思いを発言され、なかなか良い交流でした。

## 安全・安心部

災害の中でも特に地震に関しては不意に発生し被災する危険性が非常に高くなっています。それだけに何事もない今の間にできるだけ準備をしておくことが大切です。そのため最初に考えなければならないことは「自分の命は自分で守る」ということです。

では、具体的にはどうすればよいのでしょうか?様々な考え方がありますが、少しずつ考え、具体的に行動を始めることに意義があると思います。

安全安心部としましては少しでも皆様方の手助けになればとの想いで以下の活動を進めてまいります。

- ① 防犯パトロールへの参加
- ② 万葉フェスタでの非常食の試食
- ③ 普通救命(AED)講習会開催  
(令和3年2月頃を予定しています)
- ④ 防災無線での地震に対する啓発活動

## 子ども健全育成部

今年度は、二つの行事に挑戦しました。一つめの万葉フェスタでの凧作りは、40名余りのご参加をいただき、子どもさんも親御さんも、まち協部員も皆が楽しい時間を過ごしました。白い凧に自分の好きな事柄を書き、出来上がっていくにつれ、気分も上がっていく様子に、まち協部員も、応援させてもらいました。

二つめは青少年育成会とのコラボで百人一首です。育成会の会長さんに持参頂いた百人一首でルールを教えてください、取り合うのですが、子どもさんは2人だけで、子どもさんたちも忙しいと痛感しました。

今後どのようなことを計画すれば良いのか、皆様方のお知

## 部会だより



恵を拝借したいものです。

## 地域活力部

例年通り万葉の森船岡公園の一角にムラサキ栽培を計画しています。昨年は残念ながら苗の生育が悪く植栽できませんでした。

本年は、3月2日に約100粒程種を植木鉢に蒔き、土の表面が乾かないよう毎日注視しています。雨の日が多いので現在のところ、芽は出ていません。やはり万葉の森船岡公園にムラサキがないと寂しいです。

## 歴史・文化部

令和2年の事業計画は、昨年と同様に「市辺れきし発見塾」を2回(9月・2月)開催し、「御代参街道を歩く」が最終年を迎え、昨年と同じ11月23日(土山~日野)を計画しています。

また、布施山城遺跡への登山ルートのご案内板と案内人(名称:布施左衛門)をそれぞれ設置しましたが、登り道の階段がずりおちて、危険な箇所が多く見受けられることから、地元と連携を図りながら階段の整備を進めていきます。

昨年、各町の協力を得て撮影した「地蔵盆」のビデオ制作については、試写会の開催を目指してまいります。

## 自然・環境部

### サニーレタス苗配布

2月9日午前、布引台前山公園、午後コミセン駐車場で、見学研修参加の皆さんとともにサニーレタス苗配布を行いました。部員で蒔種、ポット移植まで育てた苗を、プランターに堆肥入り土を入れ、各自で苗を植えて持ち帰っていただきました。ご家庭で育てながら食していただくことにより、健康と環境の観点から、堆肥、コンポストの良さを感じていただくための取り組みです。無農薬の野菜を食することで健康を。生ゴミを堆肥化していることで環境を守れるのです。

環境を守ることは、次世代へ美しく安全な地球を贈ることです。生ゴミを可燃袋に入れないことは、処理費用とともに排出CO<sub>2</sub>を大きく削減することができます。

個人でコンポストの利用が無理でも、友だち同士、隣同士の共同利用は、お互いの安否確認や助け合いにも繋がり、住民の堅い結束にもつながるのです。「万葉のまち市辺」とともに「環境のまち市辺」と呼ばれるよう、今年度も「自然を愛し環境にやさしいまちづくり」の活動を続けます。



正月7日すぎから立春をはさんで3月15日ごろまで各地でさまざまな「どんど焼き」や「節分」行事が行われました。今年1年の無病息災や本格的な農作業を前に家の邪気を払い豊作を祈るのが目的ですが、今年は年初から中国武漢からのコロナウイルスの脅威にさらされています。日に日に昼の時間が長くなり、陽光も強まる中で、それらの行事をとおして人間の体力、気力の回復を祈りコロナウイルスを吹き飛ばしてほしいものです。(AT)



市辺地区まちづくり協議会広報誌

いちのべ

# 万葉のまち 市辺

第51号

令和2年4月



「さくらきれいだったね！」

昼下がりの船岡山公園を後にする子どもたち



発行：市辺地区まちづくり協議会 / 東近江市市辺町2391  
市辺コミュニティセンター内 TEL&FAX 050-5802-3392

Facebook



ホームページ



# 減災のまちづくりプロジェクト活動の終了にあたって

プロジェクトリーダー 榎木 貞夫

2016年5月に、まちづくり協議会として立ち上げ、以降約4年にわたって活動を続けてまいりました「減災のまちづくりプロジェクト」は、2020年3月末をもって終了することとしました。

この間、自治会連合会をはじめ各種団体の皆さんの絶大なご協力を得て、多くの実績を残すことができたことを大変嬉しく思っています。



京都新聞で紹介された減災カルタと榎木さん

このプロジェクトは、当初から終わりのない活動となることを予想しておりましたが、今日までの活動で検討してきたことをこれから実践することが非常に重要だと考えています。

これまでプロジェクトで取り組んできた、

1. 住民に対する「自助」の大切さを中心とした啓発活動

2. 住民がお互いに助け合う「共助」の活動を行う自主防災組織の全自治会設置。
3. 災害時に助けを必要とする人の支援の在り方。

等について、具体的に実践するため、まちづくり協議会としては自治会連合会・自主防災組織・民生委員等の皆さんと共同で「市辺地区減災活動連絡会」を立ち上げ、実践する減災活動を進めることとしておりますので、引き続きご協力いただくようお願い致します。

近い将来必ず起きるとされている巨大地震に備え、まず全ての人々が「自分の命は自分で守る」ことを実践し、その上で助けを求めている人々を助けることが当たり前になるような市辺であって欲しいと願っています。

「〇〇しておけばよかった」という言葉が「〇〇しておいて良かった」との言葉に変わる市辺にしましょう。最後になりましたが、プロジェクト活動に参加し活動していただいた皆さん、また側面的にご協力いただいた皆さんに心からお礼申し上げます。

## 令和元年度 第2回「市辺れきし発見塾」

歴史・文化部

### 「蒲生氏郷の城」

去る2月23日、第2回市辺れきし発見塾は「蒲生氏郷の城」と題して蒲生氏郷公顕彰会理事の福永保氏を講師に迎え、参加者50名を超える盛況でした。

講演の冒頭、「蒲生氏郷の母は、この近くの中羽田後藤館の後藤但馬守の娘であり、皆さんの身近な人です」と話されるとエッと声がきこえました。

講演は、資料とスライドを使って始まり、織田信長の近江侵攻では、賢秀（氏郷の父）はいち早く信長に降伏を申し出、その証として氏郷（幼名・鶴千代）を人質として岐阜城におくられ、そこで、文武に優れた才能を信長に認められ二女冬姫を妻に迎えることとなります。

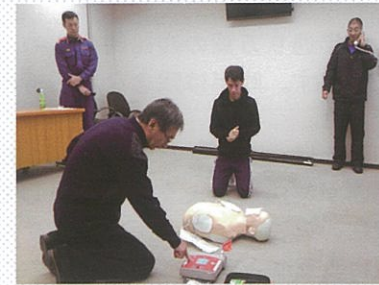
信長の従軍として各地を転戦し、数々の手柄をあげますが、天正10年の本能寺の変で信長が討たれると蒲生家の一大事となりました。信長の後継者争いに勝った羽柴秀吉の臣下に入り、ここでも氏郷が先頭に立って突進し勝利を導きました。その結果、南伊勢12万石に転封され松ヶ島城に入城。しかし、進軍中に規律違反した家臣を処刑にする法令には厳しく対処する姿勢で臨みました。その後、松坂の築城に取り掛かり、石積みにあたっては坂本の穴太衆の石工を城下には日野から商人を呼び寄せ、常に近江を思う気持ちでありました。その後、九州攻めを終え、関東小田原北条攻めでは決死の覚悟で臨み、馬印は佐々成政が使っていた「三蓋笠」の使用を秀吉に願い出ました。その三蓋笠を図案化したものが蒲生中の校章と聞いています。秀吉は小田原攻めに勝利したことにより、奥州仕置きを行い、氏郷は会津42万石に転封されました。ここでも反乱や一揆勢を鎮圧し、伊達政宗を押さえ込むという秀吉の期待に応え石高も92万石の所領となり、黒川を若松に改め築城に取り掛かり、7層の天守閣を築城し「会津若松鶴ヶ城」と命名しました。会津若松においても信長が作った城下町を見習い、日野や松坂から商人を呼び寄せ、奥州一の城下町を作り、産業や文化の発展に力を注ぎましたが、戦い、たたかいで明け暮れた戦国のど真ん中の39歳で病魔に倒れ亡くなりました。



## AED講習会

### 百聞は一見に如かず 百見は一行（体験）に如かず

2月16日（日）午前9時から12時まで、消防署本部3階において、市辺地区まちづくり協議会の安全安心部主催で、東近江普通救命（AED）講習会があり、東市辺町自治会から9名が参加しました。



消防署員から、最初は応急手当の目的や必要性、救命の効果、緊急時の消防署への通報方法等の講話を聴き、後半は、AEDの操作説明のあと消防署員の指導のもと救命処置の手順に沿って、胸骨圧迫、人工呼吸、AED操作について一人ひとり実施訓練を行いました。

その後、気道異物の除去、止血法（RICE法）等の講習を受け、講習終了後、普通救命講習修了証の交付を受けました。心臓と呼吸が止まった人の命が助かる可能性は、10分で急激に低下します。その反面、救急車が現場に到達するまでには、平均8分以上かかる事から、居合わせた人が救急処置を行うと、助かる可能性が高くなるとのこと。

受講者には2回目の方もおられます。家族、夫婦、知人等の不慮の事故を未然に防止することが可能になりますので、今後も東市辺自治会として多数の方々に体験して頂きたいと思えます。

（寄稿 東市辺自治会長 谷 精一郎氏）

## 感染症予防の基本は 手洗い・うがい・咳エチケット

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、休校や地域のイベント中止、外出自粛など、社会生活に大きな影響を及ぼしています。

コロナウイルスに限らず、感染症予防の基本は、手洗い・うがい・咳エチケット（マスク着用）の徹底です。また、日頃から規則正しい生活習慣を心掛け、十分な休養（睡眠）・栄養・運動（体力づくり）により、体調を整えて病気に負けない体づくりをすることも大切です。

特に、高齢者や、心臓病・糖尿病・高血圧症等の持病がある人が感染症に罹ると重症化しやすいことが明らかになりました。生活習慣病の予防や、きちんと治療することも重要です。

新年度の市の健（検）診も始まります。地域の皆さんで健康づくりに取り組みましょう。

本欄の記事は、東近江保健センター様のご協力により掲載しています。

健康福祉部

中部空港ゴミ処理センター

## 見学研修

自然・環境部

1月28日、小雨の中、見学研修を実施しました。見学先は、中部空港ゴミ処理センター。空港は利用していてもゴミ処理までは知らないものです。見学時は丁度風雨も止み、見学日和でした。空港ならではのゴミは、搭乗前の検査で取り上げられた飲料ボトル、弁当、土産、化粧品。検問で没収された高級酒、生花、香辛料、違法薬物。そして機内ゴミ。空港は駐機時間即駐機燃料となるので機内の残留物は全て袋詰めにして降ろされる。飲食物の残り物、容器、忘れ物は眼鏡、補聴器、入歯、時に履いていた靴までも。センターではそれ等を区分、リサイクル、焼却、また見学者用の見本にもなっています。



空港だけのゴミでは余裕があるので市内のゴミも少し集めるとのこと。この辺でも見るパッカー車の仕組みも教えてもらいました。昼食のあとキンピール名古屋工場を見学し、試飲もさせてもらいました。もちろん、バス降車後に運転をする方々は遠慮しましたので念のため。



センターではそれ等を区分、リサイクル、焼却、また見学者用の見本にもなっています。

空港だけのゴミでは余裕があるので市内のゴミも少し集めるとのこと。この辺でも見るパッカー車の仕組みも教えてもらいました。

昼食のあとキンピール名古屋工場を見学し、試飲もさせてもらいました。もちろん、バス降車後に運転をする方々は遠慮しましたので念のため。

## 東近江市内まちづくり協議会交流会 まちづくりにおける人材確保・育成

1月26日、八日市商工会議所大ホールで「東近江市内まちづくり協議会交流会」が開催され14地区から100余名が参加され、市辺地区まち協から6名が参加しました。

今回のテーマ「まちづくりにおける人材確保・育成」について北村隆幸氏（せき・まちづくりNPOぶうめらんの代表理事）の講演と安土学区まちづくり協議会から事例報告がされました。いづれも「まちづくり」に参加する「担い手」づくりの取り組みの事例で学ぶ点は多くありました。



せき・まちづくりNPOの北村氏は「関に若者が戻るために、取り組むべきこと」をアンケートの分析などで問題構図を明らかにし、小冊子「高校ぶうめらん」を発行するなど、若い人たちの知恵と力、加えてコミュニティ組織、商店街等との協働事業など、先進的なまちづくり事例を報告されました。